

事業所名 グループホームやすらぎ東古松
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 3月 8日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、老人福祉施設(9年以上)
B:現職 元介護療養型病棟看護士
資格・経験 看護士(8年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
『自分の親を安心して任せられるグループホームを作りたい』という代表者の思いが基本にあり、職員にもその思いは浸透していて、入居者に安心して家庭的な生活をしていただく為に思いやりのある温かい援助がされていた。
入居定員が6名と少人数のため、一人ひとりの体調や様子の変化が把握しやすいため、共有部分も玄関に入ってすぐの居間だけであるが、入居者がいつもそこで過ごしているのは床暖房で暖かい事もあるが、優しく安心してできる職員の対応もある。玄関は常に鍵を掛けおらず、職員の気配り目配りができている。
代表者が以前公文の教室を営み、子供(障害児)の教育に携わっていた経験が認知症高齢者の毎日の生活に生かされている。このホームに入所してから介護度が軽くなった方が何人もおられると聞き、毎日の散歩と同時に顔や指先を使うパズルやドリルや手芸等と職員の温かい対応がうまく機能している結果であろうと思う。
一般住宅を改装している為、周りの住宅街に自然に溶け込んでいる。外観だけでなく、近隣との交流もとてもうまくいっていて、町内会に加入し、様々な町内の行事にも参加している。歩いて2~3分の所に公園があり、落ち着いた過ごせる環境である。
代表者は栄養士の経験もあり、1日30品目の食材を摂れるように栄養面にも気を配っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
出勤者による話し合いはほぼ毎日行われ、問題解決は図れている。話し合った内容や決定事項は、申し送りノートで全職員に共有できているが、会議録としても残した方がよいと考える。全員で集まるチーム会議も定期的に行えば、各々の職員が持っている情報や考えも聞いて職員のチームワークも増し、よりまとまった良いケアに繋がると思われる。
現在とてもうまく行っている近隣との交流をもう一歩発展させ、認知症に関する勉強会等を、地域の方や職員も一緒にできれば良いと思う。今後は、年1回くらい予定しているそうである。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述) 『自分の親を安心して任せられるグループホームを作りたい』という思いが基本にあり、名前の通り温かい『やすらぎ』のあるグループホームを目指している。 基本理念に、『基本的人権の保護』、『安心と思いやり(愛)』、『生きがいをもちて生活をする』、という三点を挙げている。 ・入居者のあらゆる面での基本的人権の保護に最新の配慮を持って支援したい。 ・幸せな生活を支える基本は安心と思いやり(愛)であるという事を常に考えて支援したい。 ・生きている喜びや明日への希望が持てる目標のある生活を組み立てたい。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 入居者の話をしっかりと聞く事が大切であると考えている。散歩や入浴時には会話が充分できるので、そういう時間も大事にしている。全てを受け入れ、甘えたい時にはしっかりと甘えさせてあげるように信頼関係作りにも心掛けています。 何事にも制限を設けない。入居者それぞれのペースに合ったように対応し、決して強制はしないようにしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 入居者それぞれ人生の先輩で物事をよく知っておられるので、様々な場面で教えれらう事が多い。昔の話をしっかりと聞くことで、入居者の興味ややる気を引き出している。縫い物が上手な方は町内のバザーの小物作りをしたり、生け花が好きな方はきれいに玄関に花を生けていた。社交ダンスをしていた方に教えてもらい、みんなで音楽を流してダンスをして楽しんだりもする。 プライバシーに関しては、居室への入室時には必ず声を掛け、了解を得てから入る。入浴やトイレの時もプライバシーが守られる様に配慮をしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ほぼ毎日、午後7時~8時まで職員(代表者・管理者・選出・夜勤者)で日常の問題や気になる事の話し合いをし、決まった事は職員間で共有し、統一したケアができるようにしている。大きい組織ではないので、動き(行動)が早いという利点がある。 代表者が公文の教室を営み、子供(障害児)の教育に携わっていた経験が認知症高齢者の毎日の生活に生かされている。絵画や日本地図のジグソーパズルや大人のためのドリルを使い、興味を持ってもらいながら続けられるように工夫し、成果が出ている。</p>		